

番号	5	事業名	山地治山(地域防災対策総合治山)	市町村名	安曇野市	路河川名	信濃川流域犀川支流	箇所名(ふりがな)	潮沢(うしおざわ)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	事業区域は、安曇野市の北東部、犀川支流の潮沢川上流右岸の支流であり、長野市から松本市へ通じる国道403号及び萩之久保、竹ノ花、俵沢、池桜、矢越の5つの集落が点在している。 平成16年10月に発生した台風23号により、複数の箇所において山崩れが発生し、甚大な被害をもたらした。災害の特徴としては、浅い表層土が立木と一緒に崩落し、溪流を閉塞させる状況が多く認められた。また溪流には大量の不安定土砂が堆積していることから、下流保全対象への2次被害も懸念された。 甚大な災害が発生した要因の一つとして、当地域の森林の8割が手入れ不足であり、他の植物の侵入を妨げ、根入が浅くある程度生長すると根から倒れてしまう特徴を持つニセアカシアの侵入が著しいものであったことも挙げられる。					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価				
	事業目的 平成16年10月の台風23号により発生した崩壊地の復旧や溪流内に堆積した土砂の抑止を行うとともに、ニセアカシアの侵入が著しい森林やカラマツ等の過密林を整備し、保安林としての機能回復を図るため事業を実施。					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価				
事業概要	当初工期	H18~H20	費用対効果(当初時)	23.0	事業費(千円)	財源内訳(千円)				④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価
	最終工期	H18~H22	費用対効果(評価時)	10.0	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源			
	当初計画内容(主な工種)	谷止工9個、床固工3個、山腹工1.67ha、森林整備13ha			306,300	153,150		137,835	15,315			
	最終事業実績(主な工種)	谷止工11個、山腹工1.65ha、森林整備12.4ha			374,106	187,053		168,348	18,705			
事業期間の延長・短縮理由と分析	事業計画時は3か年の計画であったが、年度ごとの予算、事業の進捗状況及び詳細な調査測量設計による事業内容の見直しにより、5か年に延長した。					⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価				
事業費(予算)の増加・縮減理由と分析	詳細な調査測量設計による変更。					改善措置の必要性	改善措置の必要性	当事業としての改善措置の必要性はない。防災施設の整備や森林整備など県の事業実施で終わることなく、地域の防災マップを作成する等、地域住民の防災意識の向上につなげた取組も必要であった。				
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>実施した山腹工の中には、草が生育しているのみで、木の生育がまったく見られない箇所もある。施工時に天然による侵入を期待したため植栽を行わなかった箇所、植栽した木が鹿の食害にあったと思われる箇所等あり、将来を見据えた施工、維持管理が必要。</p> <p>改善措置の必要性に記載した内容を踏まえ、ハード対策だけでなくソフト対策も併せて実施していくことが課題。地域からもパトロール復活の声が挙がっている。地域を交えた防災活動を行い、地域の存続に寄与することも必要。しかしながら、旧明科町では、現在の人口が平成18年に比べ97.6%であるものの、当地区は70%と激減しており、過疎化の大きな波が押し寄せている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>廃線敷ウォークの利用客増加に伴い、H27年より市周遊バスが運行開始された</p> </div> 				
	直接的効果(定量的・定性的)	溪流や山腹に堆積した約3万m3の不安定土砂を抑止するとともに、崩壊地約2haが森林に復旧した。また、荒廃した森林約12haが良好な森林として生育している。 このことにより、国道403号線については土砂災害の再発生を防止することにより安心安全な通行が可能となった。併せて人家212戸(事業実施当時)が保全され、地域住民の暮らしに寄与している。 また、事業実施後、土砂災害は発生していない。							B			
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の安全・安心な生活環境の保全や、流域の自然環境の維持向上に寄与している。							部意見	荒廃溪流や山腹崩壊地の復旧及び森林整備により、山地災害の未然防止や森林の土砂崩壊防備機能の回復が図られ、事業の目的を達成している。		
						行政改革課意見	山地崩壊地等が安定し、一定の効果が認められる。					